

予 算 要 求 資 料

令和 8 年度当初予算

支出科目 款：衛生費 項：保健予防費 目：母子保健指導費

事業名 多胎児家族サポート事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

子ども・女性部 子育て支援課 母子保健係

電話番号：058-272-1111(内3543)

E-mail：c11236@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 8,004 千円 (前年度予算額： 8,304 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	8,304	1,249	0	0	0	0	0	0	7,055
要求額	8,004	1,168	0	0	0	0	0	0	6,836
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

・双子等を妊娠中の妊婦及びその家族には、妊娠期からの長期入院による孤立化、多胎に特化した育児指導がない等による情報不足、母体の体力低下や育児量の多さ等による育てにくさといった課題がある。こうした社会的・身体的・精神的負担を軽減し、虐待予防を図るうえで、多胎に特化した妊娠期から育児期までの一貫した支援体制が求められている。

(2) 事業内容

①教室開催事業

- ・プレママパパ教室(双子等を妊娠中の妊婦及びそのパートナーを対象)
- ・おやこ教室(双子等を育児中の保護者を対象)

②訪問支援事業

- ・多胎妊婦(やむを得ず病院に入院している方や自宅療養中の方)訪問
- ・保健師等家庭訪問への同行(0歳児)
- ・外出困難な幼児期定期訪問(最大3歳まで)

(3) 県負担・補助率の考え方

単胎と比べて虐待のリスクが高く、濃厚な支援が必要な多胎児は県全体の児の1%と少なく、県として事業を実施することは妥当である。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
委託料	8,004	多胎児家族サポート事業
合計	8,004	

決定額の考え方

4 参 考 事 項

(1) 事業主体及びその妥当性

双子等の育児経験者を構成員としたNPO法人ぎふ多胎ネットは、自身の育児方法等経験を生かした支援が可能であることから、本事業をぎふ多胎ネットに委託し事業を実施している。

事業評価調書（県単独補助金除く）

☐ 新規要求事業

☒ 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

各地域において、医療機関、行政、多胎児サークル等が連携し妊娠期から、育児期までの一連の支援体制を整備し、双子等の家庭が地域生活において安心して子育てができることを目指す。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①						

○指標を設定することができない場合の理由

本事業の目的は、双子等の家庭に対し妊娠中から育児期にわたり切れ目ない支援を継続的に実施することで安心して出産、育児期を過ごし、虐待予防につなげることであり、目標の達成度を定量的な指標で示すことはできない。

（これまでの取組内容と成果）

令和4年度	<p>①多胎児（プレ）ママパパ教室（各圏域において2回程度開催）</p> <p>②訪問等支援事業（やむを得ず病院に入院している方や自宅療養中の方、3歳までの多胎児がいる家庭）</p> <p>前年度までの取組により、妊娠期から育児期までの一連の支援体制の整備、支援者の育成が成果として挙げられる。</p> <p>今後は、それらの成果を活用し、引き続き地域で切れ目ない双子等への支援が継続されることで母の孤立化予防、虐待予防を図る必要がある。</p>
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %
令和5年度	令和4年度と同様
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %
令和6年度	令和4、5年度と同様
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 3	妊娠期から育児期まで切れ目ない継続的な支援の実施により、虐待予防の観点からも事業の必要性は高い。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	妊娠期からの支援により、地域の医療関係者やピアサポーターとつながることで、対象者にとっては、安心して育児期を迎えることができる。また地域の医療関係者は、虐待のハイリスク因子である双子等の家庭に妊娠期及び出産後も早期に支援に入ることが可能である。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 2	参加者が、自身の双子等の出産・育児経験を生かし次の支援者となることが可能であるため、事業の実施とともに次の支援者の育成を図ることで継続的な活動につながる。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 多胎妊婦や双子等の家庭では、周りに仲間が居ないことによる孤立化、多忙な育児等虐待のリスクが高まることから、妊娠期の早い段階で、地域の支援者や先輩ママパパとつながることで虐待予防が必要である。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 多胎児家庭が安心・安全な妊娠期及び育児期を迎えることが出来るよう、継続した支援体制を維持する。
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課 組み合わせる理由 や期待する効果 など	<div style="text-align: right;">【〇〇課】</div>
--	---